



3月11日に発生した東日本大震災。想像を絶する過酷な状況の中で、未来への希望を携えて生まれてきた「新しい命」。有志の会は、この日に誕生した赤ちゃんに「希望の君の椅子」と名付けた椅子を贈ることを10月に決定。12月から震災被害が大きい宮城、岩手、福島、3県で確認できた104人に順次、椅子を贈り届けている。

### 「希望の君の椅子」

有志の会と北海道の中央部にある東川町、剣淵町、愛別町の3町は、それぞれの町内で誕生した赤ちゃんに「君の椅子」を贈る活動を平成18年から行っている。この椅子には、新たな生命の誕生を温かく見守り支え合う地域コミュニティの再生を願い、「生まれてくれてありがとう、君の居場所はここにあるからね」という思いが込められている。

### 「君の椅子」

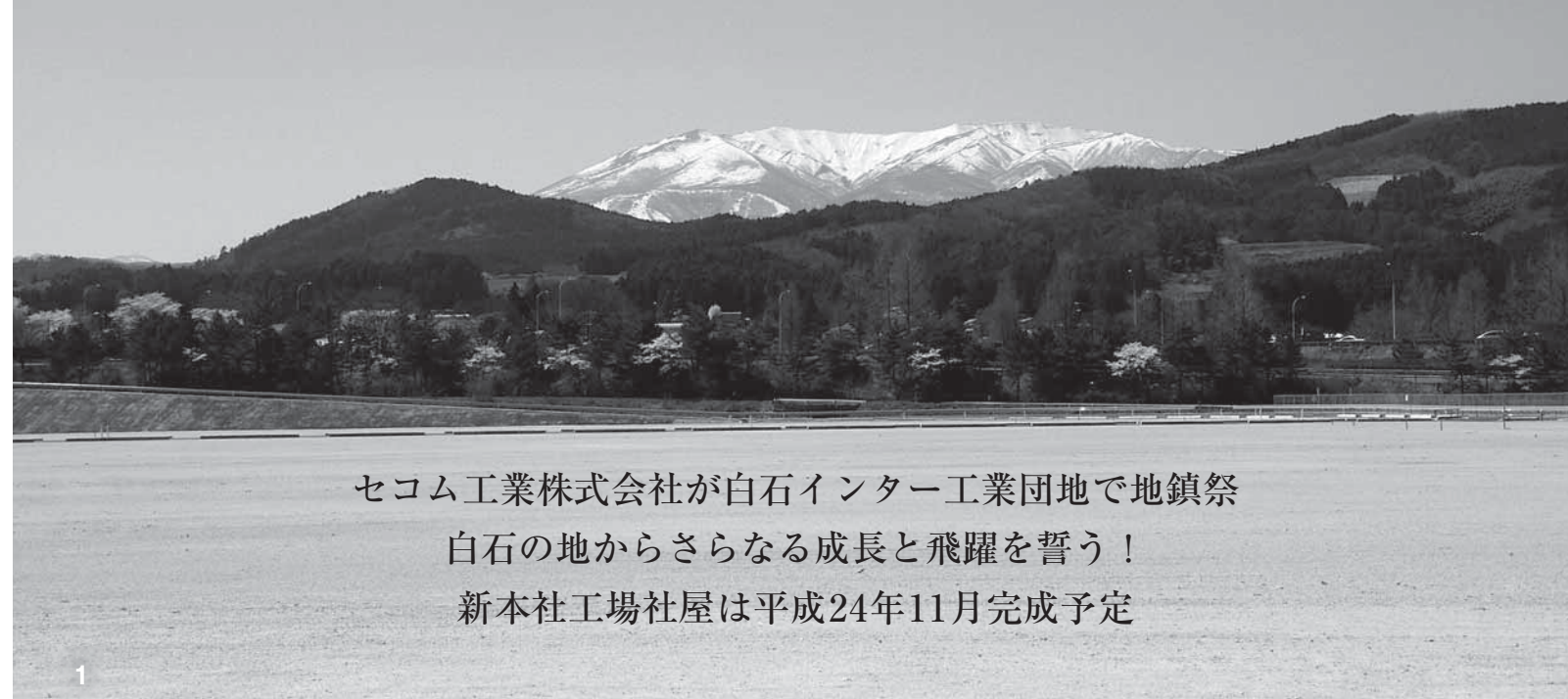
東日本大震災が発生した3月11日に生まれた命に椅子を贈る活動をしている北海道の「君の椅子」プロジェクト有志の会（磯田憲一代表）が12月21日、市役所を訪れ、山崎高寿さん・尚子さん（城北町）の次女りらちゃんに「世界で一つの特製椅子」を贈った。

## 3月11日に誕生した命に「希望の君の椅子」を贈る

### たくましく未来へ

12月21日、磯田代表と愛別町の矢部福二郎町長が市役所を訪れ、山崎高寿さん・尚子さんの次女りらちゃんに「希望の君の椅子」を手渡した。磯田代表は、「直接手渡したかった。子どもたちがたくましく育つことが、東北の、日本の希望につながる。子どもの誕生をみんな喜び合いましょ」と想いを話し、手紙を添えて椅子を贈った。

りらちゃんは3月11日、地震があった39分前の2時7分に市内の病院で誕生。尚子さんは出産後、部屋に戻るエレベーターの中で地震に遭った。高寿さんは、「妻の実家が全壊したり、津波で友人の妻と子が亡くなったりました。復興には時間がかかりますが、みんながりの誕生を祝ってくれてとてもうれしい。みんなに希望を与えられる子になってほしいです」と声を詰まらせた。



## セコム工業株式会社が白石インター工業団地で地鎮祭 白石の地からさらなる成長と飛躍を誓う！ 新本社工場社屋は平成24年11月完成予定



1\_高速道路のインターチェンジに隣接した交通アクセス抜群の立地環境「白石インター工業団地」  
2\_東日本大震災で甚大な被害を受けたセコム工業の事務所棟 3\_地鎮祭で鉄入れをする新開社長  
4\_「環境」「高品質」「安全・安心」をコンセプトに自然と調和した最先端工場を目指す新本社工場社屋の完成予想図

### 素早い判断と行動で復興に向けて進む

平成23年6月29日、本市と立地協定を締結した防犯・防災関連機器製造の「セコム工業株式会社」（新開至代表取締役社長）が12月22日、新本社工場社屋建設の地鎮祭を白石インター工業団地で行った。地鎮祭には約30人が出席。新開社長は「昭和52（1977）年に白石で産声を上げ、セコムグループの製造部門の中核工場として、付加価値のあるセキュリティ機器の製造や食の安全としてハープの生産、そして、日本の拠点として、日々、社会に貢献することに努めてきました。東日本大震災により事務所棟が甚大な被害を受けました。が、復旧・復興には素早い判断と行動が大変重要だと痛感して

います。白石の地からさらなる成長、さらなる飛躍の一歩を迎えられることに感謝しています」とあいさつした。風間市長は「この地を新たな拠点として決定した御社のご英断に対し、心から敬意を表します。地域経済の活性化はもとより、地元雇用の創出に貢献いただけるものと、その一日も早い完成を期待します」と白石の活性化に期待を寄せた。

また、河端宮城県経済商工観光部長は「市内に分散している各拠点を集約する形で即座に再出発の場所をこの地に決めたことは、仙南地域はもとより県内全域にとって大変明るい話題であり、地域経済の活性化や地元雇用の維持・創出において、大きな効果をもたらすものと期待しています。この地の利を活かして今後益々業績を拡大され、地域経済の牽引役としての活躍を期待します」と知事からのメッセージを話した。本社工場社屋は、2区画ある工業団地のうち、現在の3倍にあたる3万6千平方メートルの区画に建設。鉄骨一部2階建てで延べ床面積は約1万8千平方メートル。総工費は25億円、平成24年11月に完成する予定である。防犯・防災関連機器の生産機能を集約し、将来的には画像関連事業などの拡大を図る方針。初年度の従業員は275人で、初年度の売り上げは100億円を想定し、5年後は350人、200億を目指す。



2 1 「希望の君の椅子」が贈られた山崎さんご家族  
座面の裏に刻印された名前と「たくましく未来へ」のメッセージ

### 届けられた手紙

～生まれてくれて ありがとう～

りらちゃん

3月11日に生まれた君へ  
世界にひとつだけの「希望の「君の椅子」」  
3月11日。日本が息をのみ、言葉を失ったあの日、  
母なる宇宙から君は生まれた。  
未来への希望を携えて君は生まれてくれた。  
新しい生を受けた君に、この椅子を贈ろう。  
君の名前と「3月11日」が印（しる）された、君だけの椅子だよ。  
君がこの椅子に座れるのは、ほんの数年もかもしれない。  
たくましく成長していくのだから・・・  
そして大きくなった君は、この椅子を忘れてしまうかもしれない。  
でも、君との思い出を刻んだこの椅子は、  
ずっと側にあるからね。  
君の居場所は、ここにあるからね。  
いま、この地に生を受けた君に、この椅子を贈ろう。  
生まれてくれて ありがとう。

「君の椅子」プロジェクト一同

